

野研びより

2019年

制作：野外生物生態調査研究部
昆虫班・植物班・鳥班・水生生物班

目次

昆虫編 2

ハラビロトンボ

ヒメゲンゴロウ

オオクワガタ

アルファルファタコソウムシ

クワカミキリ

植物編 10

ミヤコグサ

鳥編 13

ミサゴ

オオバン

ドバト

水生生物編 . . 18

シマハギ

タイリクスズキ

ヒイラギ

トラウツボ

タカノハダイ

マフグ

昆虫編

野研びより

昆虫編 1 号

野外生物生態調査研究部 昆虫班

2019 年 7 月



ハラビロトンボ（腹広蜻蛉） *Lyriothemis pachygastra*
トンボ目 トンボ科

体長：35mm

分布：北海道～九州の平地、丘陵地の湿地、休耕田

出現期：4～10 月

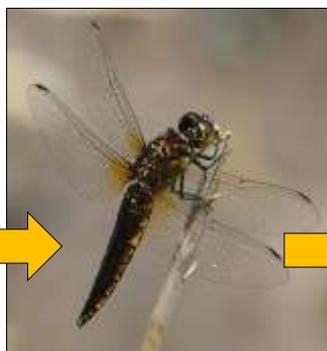
（◀ハラビロトンボ 撮影地：宮崎大学構内 2019 年）

小型のトンボの一種で、その名の通り腹部の幅が広いのが特徴である。高く飛ばずに、羽化後も近くの草原などにとどまって小さな昆虫などを捕食する⁽¹⁾。日本中に分布が確認されているが、北海道では絶滅危惧種に指定されている⁽²⁾。また、大陸では朝鮮半島、中国東方区およ

び北中部に分布する⁽³⁾。

【トンボは成長で色が変わる？】

トンボの仲間のオスは、成熟するにつれて色が変わるものが多い。このハラビロトンボもその一種である。未成熟なハラビロトンボはオス・メスにかかわらず全て上の写真のような黄褐色を示す。メスの個体の体色は、成熟につれてほとんど変化しないが、オスの個体の腹部は著しい変化を見せる。まず、腹部全体が黒色に変わり、その後体中が青色の粉を吹いたようになる。そのため、成熟した個体であれば、誰でも容易にオスの個体と判別できるだろう。（ただし、稀にオスと同じような体色の変化をみせるメスの個体が発見されることもある。）このような色の変化を見ることができるトンボは、身近な種類ではほか



にシオカラトンボなどもある。

（◀・いずれもハラビロトンボ 左・若いオス、中央・やや成熟したオス、右・成熟したオス、画像引用元：(4)参照

引用および参考文献

- (1)：日高敏隆・小野展嗣監修(2015) 「植物・昆虫図鑑 Navi POCKET」 Astro Arts Inc.
- (2)：北海道庁 「北海道レッドリスト(昆虫)」
- (3)：デジタル版「日本大百科全書(ニッポニカ)」 小学館
- (4)：「北摂の生き物ーハラビロトンボ」 <http://www.hokusetsu-ikimono.com/iki-h/tonbo-no-nakama/harabirotonbo/index.htm> (閲覧日 2019/7/11)

野研びより

昆虫編 2号

野外生物調査研究部 昆虫班

2019年7月



ヒメゲンゴロウ(2019 学園木花台桜)

ヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis*

コウチュウ目 ゲンゴロウ科

体長：10～12mm

分布：北海道～九州

流れが緩やかな池や田んぼに多く生息する小型のゲンゴロウ。普段は水中で生息しているが、夜間は飛行することもある。成虫は一年中見られるが、冬は泥の中などで冬眠する。

幼虫・成虫ともに肉食であるが、摂食方法が異なる。幼虫は大顎で獲物に噛み付くと、そこから消化液と麻痺させる体液を注入する。そして大顎から中身を吸収する。一方、成虫は顎で噛みちぎるようにして捕食する。

ヒメゲンゴロウという名称ではあるが、メスの個体しか存在しないわけではない。オス・メスともに存在する。



生息する場所例(2019 学園木花台)

参考文献

- 1) 虫ナビ <https://mushinavi.com/>
- 2) 昆虫・動物 - Yahoo! きっず図鑑
<https://kids.yahoo.co.jp/zukan/animal/kind/insect>

野研びより

昆虫班 3号
野外生物生態調査研究部
2019年7月



オオクワガタ

学名：*Dorcus hopei binodulosus*
分類群：コウチュウ目 クワガタムシ科オ
オクワガタ属・オオクワガタ亜属ホペイオ
オクワガタ亜種

体長：野外種では雄 20~76.6 mm、雌 22~
48 mm程度。飼育下では雄 90.5 mm、雌
60.2 mmの記録もある。

分布：日本各地・朝鮮半島・中国北東部
寿命：1年~3年（飼育下では10年以上
生きたケースもある。）

主な生活と一生

夏の終わり、受精後の雌は産卵のためブナ
やクヌギなどの朽木に約 20~50 前後の卵
を産む。30日ほどで孵化し、幼虫は周りの
朽木を栄養として蓄え始める。この孵化後
2~3週間程度の幼虫を一齢幼虫、そこから
3~4週間程度の期間の幼虫を二齢幼虫、さ
らにそこから6~8か月と、最も期間の長
い三齢幼虫に変化する。4月から5月にか
けて、三齢幼虫は、自身の糞や周りの朽木
を固めて、蛹に変態するための前蛹という
行為を行う。一か月近い蛹の期間を経て、6
月ごろに羽化し、成虫になる。



図1（上）オオクワガタ

図2（下）羽化に成功し、前羽を乾かすオオクワ
ガタ雌の新成虫（2016年6月 志布志市）

参考文献

「徹頭徹尾総力特集!!日本のオオクワガタ大特集!! 2016」『BE・KUWA（ピークワ）』第
60号, むし社, 東京都中野区, 2016年8月12日, 14頁.

野研びより

昆虫編 4 号

野外生物生態調査研究部 昆虫班

2019 年 10 月



アルファルファタコゾウムシ

学名：*Hypera postica*

原産地：ヨーロッパ・中央アジア

形態：体長 4～6mm

体色は上翅が褐色鱗片に包まれているために、当初褐色だが黒色に変わる¹⁾。背面中央部に黒帯がある。卵は楕円形をしており、産卵後は明るい黄色だが成熟していくと暗褐色から暗緑褐色へ変化していく。幼虫はふ化直後は非常に小さく、無色透明だがやがて乳黄色となり、成長していく過程の中で

図 1 アルファルファタコゾウムシ
(2019 年 学園木花台西)

緑→濃緑となり背面中央部の白帯がはっきりしてくる。雄と雌の区別は尾の端の違いで、突出しているのが雄、丸まっているのが雌である。日本で

は夏から晩秋頃に雑木林や樹皮の下などに集まり夏眠する。これが終わると、成虫はレンゲなどのマメ科雑草等を摂食する。ヨーロッパ原産の外来種であり、1982 年 6 月に福岡県、7 月に沖縄島で確認されて以降、現在では北海道・福島・関東・甲信・北陸以南の各都道府県、琉球列島では、沖縄島と久米島に分布が認められている²⁾。

【ミツバチの蜜源の減少との関わり】

アルファルファタコゾウムシはレンゲを食するため、ミツバチの蜜源の減少の原因にもなっている。そこで天敵としてはヨーロッパトビチビアメバチが有用であるとされている。

参考文献

- 1) 一般社団法人 日本養蜂協会 アルファルファタコゾウムシ対策マニュアル
<http://www.beekeeping.or.jp/circumstances/steps/alfalfaweevil>
- 2) 国立研究開発法人 国立環境研究所 侵入生物データベース アルファルファタコゾウムシ
<https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/60120.html>

野研びより

昆虫編5号

野外生物生態調査研究部 昆虫班

2019年10月



図 1 クワカミキリ (2019年 蜂の巣公園)

クワカミキリ *Apriona japonica* Thomson

コウチュウ目 カミキリムシ科

体長：44 mm

分布：本州～九州、甌島列島、屋久島

成体出現時期：6月～8月

黒色の体を持ち、黄褐色の微毛を密生する。前部の荒い顆粒が特徴。触角は黒色で第3節以下の基半分が白色微毛におおわれ、雌では体長よりわずかに長い位だが、雄では体長の1.4倍ほどである。よく似たものにオキナワクワカミキリがいる。

幼虫がクワやイチジクその他、ポプラ、ブナなどの植林木、ケヤキ、カエデ類などの街路樹や庭園木などに穿孔し、被害を与える。幼虫の体長は60～70mmで、樹幹の下方に向かって穿孔する。この時、樹幹表面の所々に木くずや虫糞を外へ排出する為の小さな穴を開ける。幼虫で越冬後、老熟幼虫は春になり蛹化する。成虫は6～8月頃に出現し、樹皮を食べる(後食)。羽化脱出したばかりの成虫は性的には未熟で、後食を行わないと交尾・産卵ができない。後食して成熟した



図 2 クワカミキリ (2019年 蜂の巣公園)

成虫は交尾後、産卵する。雌は樹皮を大顎で幅10mm、15mm程度の大きさのU字型に咬み切り、その中に一粒産卵し、粘着液物を出しながら尾端で樹皮面を押さえる。

参考文献

- 1) 福田晴夫・山下秋厚・福田輝彦・江平憲治・二町一成・大坪修一・中峯浩司・塚田拓 (2009) 昆虫の図鑑 採集と標本の作り方
- 2) ブリタニカ国際大百科事典
<https://kotobank.jp/word/%E3%82%AF%E3%83%AF%E3%82%AB%E3%83%9F%E3%82%AD%E3%83%AA-58254>

- 3) 森林生物図鑑
<https://www.weblio.jp/content/%E3%82%AF%E3%83%AF%E3%82%AB%E3%83%9F%E3%82%AD%E3%83%AA>
- 4) ケヤキ造林地におけるクワカミキリ被害について
<http://www.forest.rd.pref.gifu.lg.jp/rd/ikurin/9702gr.html>

植物編

野研びより

植物編
野外生物生態調査研究部 植物班
2019年1号



ミヤコグサ (都草)

Lotus corniculatus var. japonicus

マメ科ミヤコグサ属

分布：東アジア、ヒマラヤ、ヒンズークシ、日本各地⁽¹⁾

花期：4～10月⁽²⁾

別名：エボシグサ (京都に多かったことによる)

烏帽子草 (花の形が烏帽子に似ているため)

〈特徴〉

図 1.ミヤコグサ(2019年7月
木花キャンパス音楽棟近くの道
端)

多年草。¹⁾ 道端や草地、海岸などに生える。²⁾ 茎は地をはって広がり、長さ 15～35 センチになる。小葉は長さ 0.6～1.3 センチ、幅 3～8 ミリの倒卵状楕円形。

花は長さ 1～1.5 センチ。葉脈から伸びた葉柄の先に鮮やかな黄色の花が 1～3 個つく。2 個の竜骨弁は合着して筒状になり、ここに花粉がたまる。虫が竜骨弁の上にとまると、筒の先のあなから花粉があふれ出る。この時期の雌しべは受精能力がなく、花粉が出たあと筒の外にのびて、柱頭が虫にこすられると受精できるようになるという。豆果は長さ 2～3.5 センチで熟すと 2 裂し、果皮がねじれて黒い種子をとばす。

〈他のミヤコグサ〉

- ・ニシキミヤコグサ…花の色が黄色から朱赤色に変化するもの。
- ・セイヨウミヤコグサ…中央アジア～ヨーロッパ原産。ミヤコグサとよく似ていて、茎や葉、がくなどにふつう毛がある。
- ・ネビキミヤコグサ…ヨーロッパ原産。長い地下匍枝をのばし、茎も 0.3～1 メートルとかなり長くなる。花は 5～15 個ずつつく。

〈モデル植物としてのミヤコグサ〉

マメ科植物に特有の形質を分子レベルで解明するためのモデル植物として、ミヤコグサは注目されている。³⁾ ゲノムサイズが比較的小さく、世代時間も 2～4 カ月と短く、ま

た、再分化能力にすぐれ、マメ科植物では一般にむずかしいとされる形質転換を安定して行えるなど、マメ科のモデル植物としてすぐれた特徴をもっていることによる。



(←)図2.ミヤコグサ (図1と同じ、同所)

(→)図3.地をはって広がるミヤコグサ (図1と同じ、同所)



〈参考文献〉

- 1) 牧野富太郎 (1997) コンパクト版 2 原色牧野日本植物図鑑Ⅱ. 北隆館
- 2) 林弥栄 (2013) 山溪ハンディ図鑑 1 野に咲く花. 山と溪谷社
- 3) 佐藤修正・中村保一・田畑哲之 (2006) マメ科モデル植物ミヤコグサのゲノム構造解析とリソース整備 蛋白質核酸酵素 51(9):1051-1057.

烏編

野研びより

水生生物編 1 号
野外生物生態調査研究部 水生生物班
2019 年 10 月



ミサゴ (タカ目ミサゴ科)

学名 : *Pandion haliaetus*

英名 : Western Osprey

全長 54~64 cm

翼開長 150~180 cm

〈特徴〉翼は細長くて尾は短い。頭部は白くて過眼線が黒く、体の上面は黒褐色。下面は白くて胸に黒褐色の帯がある。翼の上面は一様に黒褐色だが、下面は白色が多く、飛翔中に下から見ると白っぽく見える。タカ科と区別される特徴として *spicule* と呼ばれる、足の外側にある魚をとらえるための棘、反転する第一趾、鼻孔の弁、密生し油で耐水された羽毛があげられる。

〈習性〉九州以北の海岸、河口、大きな湖沼などの近くで繁殖する。北日本では冬期に暖地へ移動するものがあり、南西諸島では冬鳥。停空飛翔をしてから水中に急降下して魚をとる。帆翔時の両翼は水平。Bell Boeing V-22 Osprey (米軍輸送機) の愛称オスプレイの由来である。



←オスプレイ



野研びより

鳥編 2号

野外生物生態調査研究部 鳥班

2019年 11月



オオバン(Eurasian Coot) *Fulica atra*

ツル目 クイナ科

全長：36~39cm

分布：留鳥（本州、福岡、大分）、夏鳥（北海道）、冬鳥

（四国、大分以南）¹⁾

（ただし、宮崎県内でも一部は留鳥として見られる²⁾）

図1 オオバン

©2019 YAKEN

（2019年 千葉県我孫子市）

【外見上の特徴】

体は額、嘴、足を除き、全身が黒色。額、嘴は白く、足は黒っぽく見えるが色は若干薄い。若鳥は、額板が小さく、羽色は褐色がかって見え、¹⁾嘴は肉色²⁾。



（個人的には足の裏がマメのさやかレンコンの形に見えると思う。）

【よく見られる場所】

さまざまな水辺³⁾、主に淡水域の湖沼や河川、海辺の湾内に多い³⁾。宮崎大学周辺では、大淀川に見られるとの情報あり⁴⁾。

【食物】

水草やその種子²⁾、陸上植物³⁾、昆虫、貝、甲殻類、ミミズなど²⁾。

図2 オオバン（2019年 千葉県我孫子市）

【ヘルパー行為】

オオバンは、以前巣立った個体が、親鳥の子育てを手伝う、ヘルパー行為を行うことがあると知られている。

【その他】

文献には、宮崎県でも越冬する個体数がより多くみられるようになり、県内で50羽以上の群れが見られるようになった²⁾ことが書いてあったが、個人的にはそれだけの群れをぜひ見てみたいと思うとともに、越冬個体の増加傾向の説明が知りたいと、興味を持った。

【参考文献】

- 1) 永井真人著、茂田良光監修（2019年）♪鳥くんの比べて識別！野鳥図鑑 670 第3版 文一総合出版
- 2) 中村豊、井上伸之、福島英樹 著（2015年）みやざきの野鳥図鑑 鉦脈社
- 3) ♪鳥くん（永井真人）、永井凱巳 著 見たくなる！日本の野鳥 420（2019年）主婦の友社
- 4) 宮崎の野鳥 <http://bird.shigotoda.com/ooban.html>

野研びより

鳥編 3号

野外生物生態調査研究部 鳥班

2019年 11月

図1.ドバト♀(母)

(R元年 6月 10日 宮崎大学内トイレ)



図2.ドバト♂(父)

(R元年 6月 15日 宮崎大学内トイレ)



ドバト(雛)

(R元年 6月 24日 宮崎大学内トイレ)



ドバト

学名 : *Columba livia domestica*

分類群 : 鳥綱 ハト目 ハト科

全長 : 32cm

【ドバトとは?】

原種であるカワラバト(中東、アフリカ、ヨーロッパに生息している)¹⁾が人に飼育改良され、野生化したもの。カワラバトは伝書鳩やレースなどに多く使われていた。²⁾こういった背景から元々山奥に生息していたキジバト(ヤマバトとも呼ばれる)に対して人慣れしているのが特徴。昔、寺社のお堂に住んでいたためか、堂鳩→ドバトになったと考えられている。³⁾

【ドバトとキジバトの見分け方】

- ・ドバトは首回りに緑や青色のような毛が生えている。
- ・キジバトは首元に網模様があり、羽に鱗のような模様がある。²⁾

(キジバト→)

【ドバトの形態、生態】

人為的に改良されているため、色彩は原種に近い物から、白色、褐色、黒色など様々。³⁾「クー クー グルッー」と鳴き、食性は植物食で草本の種子が主食。公園や都市部に多く見られる。1年のうちにいつでも繁殖することができ、一回に1~2個の卵を産む。²⁾メスとオスで共に子育てを行



出典 : 「森と水の郷あきた」

[http://www.forest-](http://www.forest-akita.jp/data/bird/53-kigi/kigi.html)

[akita.jp/data/bird/53-kigi/kigi.html](http://www.forest-akita.jp/data/bird/53-kigi/kigi.html)

い、繁殖能力が強く、年に5回ほど産卵することもある。

左写真は6月、宮崎大学内のトイレで営巣していた2羽の

親鳥と雛の写真である。鳩の雌雄は体格差で見分けられ⁴⁾、体が大きい方がオスである。

【参考文献】

1. 「生態図鑑」 <https://db3.bird-research.jp/news/201603-no3/>

2 「生活 110 番」 https://www.seikatsu110.jp/animal/am_pigeon/40796/

3 「サントリーの愛鳥活動」 <https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/detail/4642.html>

4 「日本鳩対策センター」 <https://www.hatotaisaku.jp/about/3325/>

水生生物編

野研びより

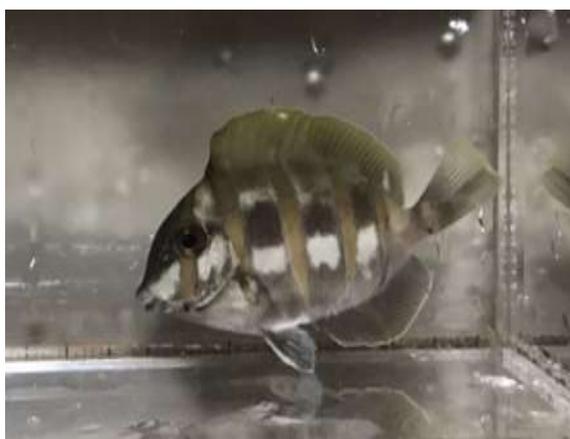
水生生物編 1 号
野外生物生態調査研究部 水生生物班
2019 年 10 月



シマハギ
Acanthurus triostegus
スズキ目 ニザダイ科
【体長】成体：20 cm
捕獲固体（幼体）：3.5 cm
【分布】
伊豆諸島、千葉県以南の太平洋岸、九州西岸、琉球列島、など

図 1. シマハギ (2019 年 10 月 日南市 猪崎鼻公園)

クロハギ属の代表種であり、体は淡色で体側に黒色の横帯が 5、6 本並ぶ。背びれの基部付近には体側の横帯がわずかに届くが、それ以外のひれに目立つ模様はない。尾ひれの付け根に鋭い棘がある。この棘は、普段は体と平向になるようにたたまれているが、攻撃するとき体側から垂直に突き立てて、相手の魚の横に並んで、体の後方部をこすりつけるように動かす。



珊瑚礁や岩礁の浅瀬にすみ、藻などを食べる草食の魚である。餌となるものが豊富な場所では大きな群れをつくり、時には 100 匹近くの群れをつくる。

また、幼魚・成魚ともに潮だまりにもよく入り込み、幼魚・稚魚は本州から九州の太平洋岸でも見ることができる。沖縄などでは食用とされるが、幼魚は、観賞用としても親しまれている。

図 2. シマハギ
(2019 年 10 月 日南市 猪崎鼻公園)

【名前の由来】

日本語では、シマハギと言った見た目そのままの名前だが、英名はコンビクトサージョンフィッシュと呼ばれる。コンビクトは囚人・受刑者の意味を持ち、サージョンは外科医の意味である。縞模様を囚人服、棘を手術用のメスに例えている。

引用：WEB 魚図鑑 (<https://zukan.com/fish/>)
磯魚ワンダー図鑑 (新書館)

野研びより

水生生物編 2 号

野外生物生態調査研究部 水生班

2019 年 10 月



図 1. タイリクスズキ (2019 年大淀川)

タイリクスズキ *Lateolabrax maculatus*

スズキ目 スズキ科

体長 最大で 1m を超える

分布 福島から四国の太平洋側・瀬戸内海・九州

成体出現時期 年中

元々はスズキの地域変種と考えられていたが、別種と判明した。原産地は大陸の沿岸だが養殖されていたものが逃げ出し、定着している場所もある。環境省の外来生物法によって、要注意外来生物に指定されている。魚以外にも、甲殻類や軟体動物、甲殻類、ゴカイなどを食べる動物食性。ヒラスズキやマルスズキと比べて大きくなる傾向があり、お隣の大分県では、134cm の個体が釣りあげられたこともある。



図 2. 図 1 と同一個体

タイリクスズキの特徴は、体側にある黒点である。この黒点から別名ホシスズキとも呼ばれている。有明海にはタイリクスズキと同様に黒斑を持つスズキがいるが、この個体群は、人為的に持ち込まれたタイリクスズキとスズキの交雑種ではなく、氷河期の海水面変動によって自然にできた交雑個体群とされている。

参考文献：中坊徹次 (2018) 日本魚類館 小学館

野研びより

水生生物班 3号
野外生物生態研究部 水生生物班
2019年 10月



ヒイラギ

Nuchequula nuchalis
(Temminck and Schlegel, 1845)

体長：約 12 cm

分布：琉球列島を除く南日本

生息環境：沿岸の砂泥質に多く生息

特徴：多量の粘液を出し、釣り上げるとグーグーと鳴く。口を伸ばしてエサを食べる。なので、釣れた時は非常に針を外しやすい。

図1.ヒイラギ (2019年 10月 青島港で釣れたのを自宅で撮影)

【ヌメヌメしてるが、味は絶品】



図2.ヒイラギの煮付け(2019年 10月)

粘液を出しヌメヌメするなどの理由から釣りの外道として知られているヒイラギ。だが、味は絶品らしいので釣れた6匹を煮付けにして食べてみた。この横の写真が完成品である。(私は料理が下手なため友達のM君に作ってもらった)

一口食べてみると、The 煮付けという感じでとても美味しい。ホロホロと崩れる身にしっかり味がついていて、煮汁も濃すぎずにちょうど良い甘辛さとなっている。ヒイラギの味も煮汁にかき消されずにしっかり堪能できるので、ヒイラギを釣った場合は煮付けにするのをオススメする。

¹ WEB 魚図鑑 <http://zukan.com/fish/internal244>

野研びより

水生生物編 4 号

野外生物生態調査研究部 水生生物班

2019 年 10 月



図 1 トラウツボ(2019 年小内海周辺の磯)

トラウツボ *Muraena pardalis*
Temminck and Schlegel, 1847
ウナギ目ウツボ科トラウツボ属
体長：80 cm (捕獲個体は 60 cm)
分布：南日本。インド・太平洋域。沿岸
の岩礁域にすむ。

ウツボ科魚類は胸鰭と腹鰭が無く、これが特徴の一つである。本種の体の模様や色は独特で派手なため、目に留まりやすいのか、ウツボと並んで有名なウツボ科魚類といえる。夜行性が強いこと、危害

をこちらから与えなければ大人しいという点はウツボと共通である。

【あけっぱなしの口】

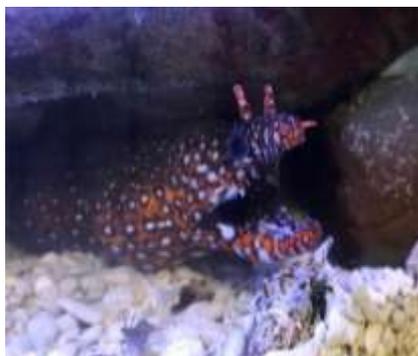


図 2 トラウツボ (2019 小内海周辺の磯)

トラウツボは、ほとんど口を開けた状態で生活している。これはなにもずっと考えことをして口をぽかんと開けている訳ではない。

その本当の理由は、顎が湾曲しているため完全に口を閉じることができないためである。

口をパクパクしている様子は何とも言えない可愛さがある。

【第 2 の顎】

ウツボは、視認できる顎とは別に喉にもう一つの顎がありこれは咽頭顎といいます。捕食する際まずは外側の顎で獲物に噛み付き、喉から咽頭顎を伸ばし獲物を固定します。そして咽頭顎を奥に引くと、獲物が体の中へ引き込まれるという仕組みです。

参考文献：Web 魚図鑑 <https://zukan.com/fish/internal283>

野研びより

水生生物編 5 号

野外生物生態調査研究部 水生生物班

2019 年 10 月



図1.タカノハダイ(2019年9月 宮崎市内海港)

タカノハダイ *Goniistius zonatus* (Cuvier, 1830)

スズキ目 タカノハダイ科 タカノハダイ属

体 長：35 cmほどになる

分 布：津軽海峡～九州までの日本海・太平洋両岸、瀬戸内海、沖縄県、小笠原諸島、朝鮮半島、台湾

生 息 地：浅海の岩礁や、藻場に生息する。幼魚は初夏ごろに潮だまりで良く見られる。

生 態：甲殻類など、底生の小動物を捕食する。

利 用：定置網、刺網などで漁獲される。釣りでは、磯釣りや防波堤釣りでおなじみである。身質は非常によく、臭みのないものは非常に味がいい。問題は臭みであり、一般にはあまり流通しない。夏などに非常に臭みのあるものが多い。生食、ソテー、煮付けなどで食べられる。

● タカノハダイを食べてみた結果

夏場は臭いといわれるタカノハダイ。刺身と塩焼きで食べてみましたが、磯臭さなどはありませんでした。磯臭さなどは生息環境や漁獲後の処理や保存方法が影響している可能性もあります。実際に食べてみることで、このような新しい発見もあるかもしれません。

参考文献

1) Web 魚図鑑 <https://zukan.com/fish/>

2) 市場魚介類図鑑-タカノハダイ <https://www.zukan-bouz.com/syu/%E3%82%BF%E3%82%AB%E3%83%8E%E3%83%8F%E3%83%80%E3%82%A4>

野研びより

水生生物編6号

野外生物生態調査研究部 水生生物班

2019年11月

マフグ(真河豚)

Takihugu porphyreus (Temminck and Schlegel, 1850)

フグ目 フグ科 トラフグ属



図 1.マフグ 7cm (2019年宮崎港)

体長：約 40cm

分布：サハリン以南の日本海、北海道以南の太平洋、黄海、東シナ海

生息環境：沿岸域から大陸棚縁辺

形態・特徴：WEB 魚図鑑を参照。港や堤防からの釣りでクサフグっぽいけど違うのが釣れたら、基本このマフグである。陸からでは、幼魚が釣れることが多いが、ネットで調べると画像のほとんどが成体であるため、何フグ

なのか迷う。(左の写真は幼魚。) 写真では、黒っぽい横線が6本程度確認できるが、成魚になると明確な線は消え、胸鰭後方に斑状に黒色が残る。

採取方法：10cm 前後の幼魚は、港や堤防から釣りで採取できる。釣ろうと思わなくても釣れる。釣ろうと思わないほうがよく釣れるかもしれない。エサはゴカイやエビ、オキアミなど動物系のものが適する。30~40cm の成魚は、船釣りや定置網などで採れるようである。(詳しくは WEB 魚図鑑参照)

ココからは読まなくていいです。

飼育方法：飼育する上で最も重要なことは、健康な個体を入手することである。ペットショップには売っていないので自分で採るしかない。磯や港、堤防から網で掬えることもあるが、これらの個体は弱っていることが多いので釣りが適している。釣り採取のポイントは針を傷つけないようにとることである。もし、傷つけてしまったら、海に返して大自然の力で治癒させたほうが良い。針がとれそうにないときは、無理に針をとろうとせず、針が付いたまま飼育するのも一つの手である。針が付いていてもさほど問題なく飼育でき、

1 週間程度で自然にとれる。

次はエサである。基本何でも食べる。クリルや魚肉、ゴカイなどでよいが、活餌や生の餌はいろいろ管理が面倒なので、人工飼料がいいように思われる。人工飼料には初め餌付きにくい、慣れればとてもよく食べてくれる。しかし、金魚のエサには注意が必要である。フグは肉食性が強いため、草食性が強い金魚のエサは適さないようである。とてもよく食べてくれるのだが、どんどん痩せてゆき最終的には逝く。そのため、肉食性の海水魚のエサが最も適している。(が、驚くほど高価である。できるだけ出費を抑えたいければ、テ〇ラ社製のワームスティック 金魚のエサがおすすめである。)

飼育環境については、そこまで神経質になる必要はない。見かけによらずよく泳ぐので、45cm 以上 (おすすめは 60cm Low) はあったほうが良いと思う。水温は室温で可。すぐに海水が手に入るようなら、外部のようなハイパワーなフィルターは必要なく、底面式フィルターで十分である。酸欠には弱いのでエアレーションはしておいたほうが良い。換水は、1 週間に一度 1/3~1/2 程度が望ましいが、2 週間に 1 度でも問題ない。しかし、底面式フィルターなどの場合は、3 週間以上換水しないと白点が付いたり、ヒシがとけたりするため、海水の入手が困難な場合は上部や外部などよりろ過能力の高いフィルターを使用するか、人工海水を作るかしたほうがよい。白点が付いたり、ヒシがとけたりしたときは、こまめに換水してやれば、1~2 週間で自然治癒する (手遅れでなければ)。

底砂は何でもよいが、マフグには砂に潜る習性があるので、きめの細かい砂を入れてあげると砂に潜るかわいい姿をみせてくれる。

フタは必ずすること。フグが飛び出すということはあまりないが、驚いたときに暴れ海水をバシャバシャとあたり一面にまき散らす。夜暗いときに、いきなり電気をつけると非常に驚き、とても大変なことになるので注意すること。

※あくまでも素人の個人的な見解なので鵜呑みにしないでください。すべて自己責任でお願いします。

参考資料：WEB 魚図鑑 マフグ <https://zukan.com/fish/internal200?page=1>



図2. 砂に潜るマフグ
(2019 年)